

令和2年度学校経営報告

1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度は休校措置からスタート。6月に再開されたが、感染の発生や感染拡大のリスクを低減するための感染症対策は年間を通じて行われた。そのため、令和2年度は感染症対策を行いながら、教育の質を落とさず、教育の機会を保障することが最大の課題となった。そのため、例年とは異なる教育活動を余儀なくされたが、今年度の取組目標の実現を目指し、具体的方策を掲げ取り組んだ。

(1) 今年度における取組目標

入学選抜における低倍率の回復は最重要課題である。これまでもこれからも行われていくべき普遍的な教育活動の充実を図りながら、中学生やその保護者がこの学校に入学したいと思える魅力ある教育活動を構築する。

(2) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
①グランドデザイン「本校で育てる資質能力」「資質能力の育て方」に基づいた各教科シラバスを作成し、ルーブリックを活用した評価を工夫する。	教育課程委員会を推進母体とし、委員会を6回開催、研修会を外部からの講師を招聘しての会を含め3回行った。グランドデザインを可視化し単元配列表を作成した。次年度に向けて、専門教科と普通教科の融合、A L的手法、ルーブリックを活用した評価法を加味したシラバスの完成を目指し、教科主任を中心に作業を継続している。
②総合的な探求の時間の代替である課題研究を、本校の教育活動の集大成として位置付け指導を行う。	農芸高校と課題研究の協働について協議会を2回実施した。次年度ビルの中庭庭園づくりの協働計画を進行させている。課題研究を探求的な学びとし、本校の教育活動の集大成であることを、中学生や保護者などを通じて周知した。次年度、企業との連携を含め授業の在り方を改善する。
③杉工寺子屋を組織的に取り組み、補習補講を行い中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。	教務部が時間割を組み、計画的に効果的に実施した。今後、主体的に取り組む生徒の育成が必要である。
④生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。	コロナ禍で例年通りのスケジュールそして講習内容を行うことができなかった。合格者数を掲示板に掲示するなど内外への周知を目指したが不十分であった。次年度、真に必要な検定の整理と科を超えた取り組み、内外への周知が課題である。
⑤教育課程委員会を中心に、新学習指導要領を念頭に、本校に通う生徒の力を真に伸ばし進路実現を促す、新たな教育課程を策定する。	P Tを組織して6月までに7回委員会を行い、グランドデザインを実現する教育課程を作り上げた。特に、課題研究を頂点として普通教科と専門教科を体系的に学ぶ教育課程であることを強調して内外に周知した。
イ 進路指導	
①「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。	進路の手引は3年生で使用した。今後、3年間を見通した1年生から使用する手引の作成を目指す。
②進路調査や模擬試験を行い生徒の能力や適性を把握し一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	コロナ禍で就職活動の日程が変更になるなど混乱が生じた。1次内定率は80%を超え、例年以上の結果を残した。
③インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	コロナ禍で辞退する企業や会社も数社あったが、ほぼ例年通りの規模で行うことができた。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒の評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が有意義であったことを記した。
④専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。	「人間と社会」はコロナ禍で授業内容を工夫せざるをえなかった。教務部が管理することを明確にし、継続的・統一的な内容で指導できる体制を作ることが課題である。

ウ 生活指導	
①登校時やホームルーム、教科指導など、様々な場面で、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導は通年行った。コロナ禍による体温チェックも登校時に生活指導部が主体に行った。身だしなみに大きな乱れは無く、落ち着いた環境が保たれている。
②保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。	コロナ禍で時差登校や分散登校を実施した影響もあり例年とは比較にならないが、1日当たりのクラス平均遅刻者数は、0.68と昨年の1.1を大きく下回った。
③「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。	アンケートでいじめの記載は2件。学校いじめ対策委員会で1件をいじめと認定し指導を行った。加害者、被害者ともに納得し平常の学校生活を送っている。
④授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	セーフティ教室を実施。教科「情報技術基礎」で指導を行った。
エ 特別活動・部活動指導	
①特別活動で「育てる資質能力」、「資質能力の育て方」を整理し実践する。	コロナ禍で、学校行事はほとんど実施できなかった。
②部活動で「育てる資質能力」、「資質能力の育て方」を整理し実践する。	「育てる資質能力」、「資質能力の育て方」を各部活動で整理し部活動指導方針に落とし込んだ。
③部活動指導方針に基づき、部活動で「育てる資質能力」、「資質能力の育て方」を整理し実践する。	コロナ禍で、部活動が行えない期間が数か月続いた。生徒の部活動へのモチベーションの低下、部活動加入者の減少など課題を残した。
④「2020オリンピック・パラリンピック教育」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	2020オリンピック・パラリンピックは延期され、コロナ禍は続いている。12月、パラリンピック選手、義肢装具士の方を招いての講演会を行った。
⑤行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動等など、本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	コロナ禍で、学校行事はほとんど実施できなかった。今後、生徒の帰属意識への影響など、生徒の変化を注意して観察していかなければならない。
オ 保健指導	
①スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	ケース会議を1回開催した。スクールカウンセラーとの連携は円滑に行われているとは言えない。今後は定期的にケース会議等を開催できる体制を作っていく。
①環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。	総務部が中心となり清掃活動を行っている。施設の老朽化による改修・修理が課題である。
③特別教育支援コーディネータを中心に教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。	中途退学者の数は昨年29人から8人と急減した。コロナ禍で休校期間が長かったことも影響していると考えられる。
カ 募集・広報活動	
①新HPの運用を本格的にスタート、外掲示板の活用、地域小学校・中学校との連携拡大など広報活動・募集活動を充実させる。	HPの更新回数は、昨年50回が今年度は162回と大幅に増。ツイッターを含め情報発信は充実した。学校見学会、8月5回実施。学校説明会、秋3回実施。体験入学、秋3回実施。

②ものづくりの面白さを子供たちに伝える活動など、地域の小・中学校との連携事業の内容をさらに充実させ、地域社会に貢献し、信頼される学校づくりを推進する。	近隣小中学校への出前授業、3回実施。 コロナ禍の影響で拡大させることができなかった。
③学校案内、ポスター、パワーポイントを刷新する。	学校案内・ポスターを全面的に刷新した。
キ 学校経営・組織体制	
①教員の授業力を向上させ、授業の質を確保するため、教員の相互授業参観や研究授業・研究協議の活性化を図る。	若手の研究授業に参加する教員は増えている。 オンライン授業を1年生の担当が総務部と連携して実施。ユーチューブへの動画配信など複数名の教員が実施。新たな授業形態への取組みが進んでいる。
②日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚する。研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり服務事故防止に努める。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行っている。教職員の服務に関する意識は高い。
③体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしないさせない許さない校内風土の醸成を図る。	部活動指導方針に、体罰にかかわる事項を追記させている。 教職員は定期的な研修等を通じて理解を深めている。
④管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。	コロナ禍で、分散登校や時差登校が行われ、部活動が中止するなど業務の内容が変化し超過勤務は激減した。在宅勤務のルール作りなどの課題が残る。
⑤防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携して実践的な防災教育を推進する。また、各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	宿泊防災訓練はコロナ禍の影響により中止。4回の防災訓練は内容を見直し実施した。
⑥創立60周年行事に向けた準備をスタートさせる。	次年度委員会を立ち上げ準備作業をスタートさせる。

(3) 数値目標と達成度

	項目	数値目標	実績値	
			昨年度	今年度
学習指導	学校評価アンケート 生徒 授業満足度	80%以上	76%	77%
	平日授業以外学習時間1時間以上（朝・放課後補習補講を含む）	10%以上		11%
	資格取得等の指導の充実、国家資格取得者数	200人以上	175人	45人
	資格取得等の指導の充実、認定資格取得者・検定合格者数	300人以上	309人	264人
進路指導	キャリア教育の充実、インターンシップの実施	2学年で実施5日間2学年	5日間2学年	5日間2学年
	就職指導の充実、就職希望者内定率	100%	100%	98%
	学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度	80%以上	85%	87%
	進学希望者の大学・専門学校進学率	95%以上		100%

生活指導・保健指導	遅刻者数（1日当たりクラス平均数）	0.8人以下	1.1人	0.68人
	教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修	2回以上	1回	0回
	暴力行為、いじめ件数（教育委員会届け出数）	0件	0件	0件
	特別な支援を必要とする生徒に関わる会議	年5回以上	0回	1回
	中途退学者の数（転学を含まない）	10名以下	29人	8人
部活動指導 特別活動	学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度	80%以上	82%	58%
	部活動加入率	70%以上	70%	49%
	地域連携活動	5回以上	2回	3回
募集・広報活動	学校説明会、見学会参加者数延べ数	600人以上		316人
	H P 更新回数	300回以上	50回	162回
	学力選抜応募倍率	1.1倍以上	0.36倍	0.48倍
	推薦選抜応募倍率	1.5倍以上	0.86倍	0.84倍
組織運営 学校体制	学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う	80%以上	77%	81%
	学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う	80%以上	89%	92%